

The 258th Programming Deliberation Committee

第 258 回番組審議会 議事録

開催日 2022 年 5 月 17 日（火）

出席者：湯川れい子委員長、亀渕昭信委員、角田陽一郎委員、安藤美冬委員、長崎亘宏委員

1、

議題（審議番組）：Daisy Holiday! X HERE COMES THE MOON

放送日時：2022年4月17日（日） 24:00 - 25:30

DJs：細野晴臣 X 藤原さくら

会社からの説明

2002年5月から放送を開始し、番組キャリア20年となる細野晴臣の「Daisy Holiday!」は、日曜深夜に静かに響く細野の渋いボイスと秀逸なミュージックセレクトが、リスナーをはじめ多くのミュージシャンの心を捉えて離さない、interfm不動の人気番組。

そして、2020年5月に番組をスタートし、先日放送100回を迎えた、藤原さくらの「HERE COME THE MOON」。毎週、藤原のアンテナに引っかかった音楽をジャンルレスに新旧問わずたっぷりとオンエア。また、初回から欠かさずお送りしている弾き語りや、日々の出来事を気ままに語っていくスタイルが幅広い層のリスナーに好評を得ている番組です。

そんな、Interfmが誇る日曜深夜の2大音楽番組がタッグを組んだ今回。

24時からの「HERE COME THE MOON」では、藤原が愛してやまない細野ミュージックについて、その誕生秘話や当時の制作スタイル・音楽活動についてインタビュー。細野も、藤原に聞いてほしいナンバーを持ち寄り、ミュージシャン目線でのトークが繰り広げられます。

替わって、25時からの「Daisy Holiday!」では、健康やスピリチュアルに思い馳せた2人のプライベートトークに華が咲くことに……。世代を越えて心を通わせる、2人のくすっと笑える夜話は必聴です。

委員からの意見・感想

審議委員 A

とても楽しく面白かった。キャリア、年齢、性別などのギャップを越え、そのギャップの妙をうまく活かした建付け・構成であった。さらには、それらのギャップや番組をブリッジするという施策自体がステーションステートメントである「Find Your Colors」という精神につながるものだったように思う。また、音楽だけでなく、トークにも比重が置かれたことで、プラスアルファの特別感があった。特に、藤原さんが、細野さんが自分と同じ年齢の頃にどんな音楽を作っていたかという点にフォーカスしていたのが、憧れの対象であるアーティストを、ある種、ライバル視する瞬間が生まれたようでおもしろかった。全体的にはトークバラエティになってしまったが、そこには常に「やさしい空気感」があって良かった。ただ、今回のマッチアップであれば、もっと集客できると感じる。ステーション自体の SNS、出演者の告知などを強化したり、リアルイベントとの連携など破壊力をつけてほしい。

審議委員 B

とても楽しく聞いた。両番組共に音楽とトークのバランスがよく、個人的にはトークが長めなのがよかった。特に、大御所の音楽家である細野さんが、音楽以外に、散歩やスピリチュアルの話など、ありふれた日常にまつわる話をしていることが新鮮で興味深かった。また、その話には共感するところが多くあり、2 人の素顔を覗けて、非常に親近感が沸く内容だった。またお 2 人の番組を聞きたい。

審議委員 C

今まで審議会で聞いた番組の中で一番楽しかった。個人的に、細野さんがその良い声で、なんでもない話を語っている番組だったらずっと聞いていたいという思いがある。世代的な好みもあるかもしれないが、このオールドスタイルな恰好が、FM ラジオらしくてよかった。このスタイルをつき通してほしい。一方で、藤原さんのことは良く知らなかったが、2 人のトークセッションを聞いて、藤原さんのファンになってしまうような興味喚起があった。これが、ビッグアーティストと若い世代のアーティストのコラボによる相乗効果だと感じる。一時間半まったく長く感じなかった。

審議委員 D

定期的に聞きたいと思える特番だった。細野さんも一人で進行する番組とは違い、藤原さんと一緒だと人柄や雰囲気も変わるようで素敵だった。細野さんはとにかく声が良く、あいづちも音楽的なテンポ感で、ナチュラルで心地いい。そのやさしい受け方も印象的だった。また、藤原さんから発信されるトークに関しては、若いアーティストのパワーを感じた。音楽的にも、前半は細野ワールドが展開されていたが全体的に楽しかった。ただ、細野さんが話す音楽話が少し控えめで表面的に感じたのでもっと深く聞きたかった。そういう意味でも続きを期待したい。後半のトークはとりとめなくしゃべりっぱなしの印象だったので、オチがつくと良かったようにも思う。

審議委員 E

何よりも楽しかった。interfm の良さ、interfm らしさは、そのファミリー感やあたたかさにあると思うのだが、今回、この世代を越えた 2 人の対談を通して、まさにそのステーションカラーを感じた。また、細野さんも藤原さんも声が素晴らしく、それぞれの言葉をもって話をされているのが良かった。選曲もバラエティーに富んでいた。ラジオの魅力である「声」と「選曲」が揃った見事な特番だった。ただ、番組自体は 2 つの番組に分かれてしまっていたので、仕切りなくつながっている構成にできるとより良かったと思う。また、後半の健康やスピリチュアルに関するトークは、豊富な経験をもつ細野さんから発信されるものだったこと、めったに聞くことのできない内容だったので良かったと思う。賛沢感がありながら、ファミリー感のあるあたたかい時間だった。またこういった機会があると良いと思う。

—会社側の回答

番組に対する評価、改善・要望などの意見を真摯に受け止め、より質の高い音楽番組の制作に向け改善を図る。

以上